



なるやま そうへい
鳴山 草平 (1902 ~ 1972)

生誕100年、没後30年記念

鳴山草平、本名・前田好照は、明治35年(1902)5月30日山梨県南都留郡宝村中津森(現、都留市中津森)にて父・前田亀一郎、母・やすの二男として誕生。家業は絹織元と農業であった。父は、宝村消防組合長などを歴任し地元の名士であったが、非常に厳格な人でもあった。谷村高等小学校時代の鳴山は、成績優秀にて郡長表彰を受けた。同校卒業後、家業の農業に従事するが、早稲田大学の通信講義録で学びその卒業論文「西鶴と近松」が同大学出版部奨学賞を得て特待給費生として入学を許可される。家出して上京し親戚に身を寄せるが、数日後関東大震災に遭遇。心配した父親が迎えに来て故郷に帰る。後に父の考えも変わり、翌大正13年(1924)早稲田大学高等師範部国語漢文科に入学。在学中、「婦人公論」や「婦人倶楽部」に水島呉羽や荻原澄子などの女名で実話を創作し学費を捻出していたという。



昭和3年(1928)3月早稲田大学を卒業し、翌4月山梨県立農林学校教諭心得となり、甲府市内に住む。昭和9年(1934)10月には、師範学校中学校高等女学校教員(国語漢文)免許状を受領し同校教諭となり昭和14年(1939)春まで勤務する。この頃から鳴山は、各種雑誌の懸賞に投稿を始める。昭和9年(1934)春、サンデー毎日の第14回大衆文芸の佳作に「明星峠」が入選。筆名は桂川龍二。同年10月には同じくサンデー毎日の懸賞小説に応募した「民衆と太陽」が一等に当選。昭和13年(1938)雑誌・新青年に応募した「極楽剣法」が一等に当選し、翌14年4月号に掲載された。この時より鳴山草平の筆名を使う。この「極楽剣法」は第9回(昭和14年上半期)直木賞の候補作となるが、受賞を逸する次のようなエピソードがある。鳴山は、選考委員の久米正雄に鎌倉の自宅に招かれ歓待を受けるが、同席していた永井龍男(文芸春秋社で芥川賞直木賞を担当。久米の義弟)と文学論で激しい応酬をし、久米家を辞去し帰る途中鎌倉宮の前で取っ組み合いの喧嘩となった。この出来事によって、ほぼ決まっていた鳴山の直木賞受賞が消え去ったといわれている。

さて、昭和14年(1939)3月鳴山は、神奈川県立平塚高等女学校(現 県立平塚江南高等学校)の国語担当教師となり、藤沢市寿町に住む。平塚高等女学校は、大正10年(1921)4月に開校し



神奈川県立平塚高等女学校 講堂と校舎

たが、明治33年(1900)開校の神奈川県立高等女学校(現 県立横浜平沼高等学校)に次ぐ県下2番目の高等女学校であり、名門女学校でもあった。教師鳴山草平は、頑固一徹で厳格であったが、反面、生徒の人間性、人格を尊重し、生徒からの信任も厚く教育熱心であったといわれ、同校卒業生の一人は「火薬廠のある街で」の中で



相模海軍工廠本部庁舎

次のように書いている。鳴山が、平塚高等女学校に勤務していた時期は、だんだんと戦時色が強くなり昭和19年(1944)6月には、担任していた5年3組の生徒たちは、寒川にある相模海軍工廠へ学徒動員された。同工廠には、正門に門衛及び着剣の水兵があり、入廠する時は学生であっても歩調を合わせ衛兵の前を「かしらァ右っ」の声と共に一糸乱れず行進して行くのだが、平塚高女だけは、「女学生にそんな軍隊式などとてもない」と付き添い教師の鳴山は主張し一切行なわなかった。鉢巻も一度も締めなかった。「門の出入りの作法などはいってみれば、あれは教育の分野だ。働きに動員されたのだから、作業について命令したり、指図したりするのは、

これは当然だが、しかし、彼女らは平塚高女の生徒なのだ。国の命令で工廠へ来ているが、一校の生徒であり、そのために教師が学校から付き添っている。そこが一般従業員とは違う。何のための付き添い教師なんだ。教育の分野に属することは一切口を出さないでくれ」と将校に言い放った。当時の感覚からすれば、当然非国民的発想であったが、海軍工廠の中で「女学生らしくあれ、男の真似をすることはしない」と断固主張し、工廠側に押し付けた勇氣には感心すると紹介されている。

昭和20年(1945)4月鳴山は、神奈川県立横浜第一中学校(現 県立希望ヶ丘高等学校)へ転任し、昭和23年(1948)には、神奈川県立高等学校教職員組合長に選出されたが、翌年食糧事情悪化と過労により肺結核を患い休職。入院を勧告されたが、厳として断り藤沢市で自宅療養に入る。

昭和25年(1950)講談社編集者・星野哲次の勧めにより教師時代の体験を生かした現代小説「きんぴら先生青春記」を「講談倶楽部」に発表する。好評のため以後5年間の連載となる。いままです時代小説だけを書いてきた鳴山にとって一大転機となるとともに、従来の懸賞募集へ投稿していた懸賞小説家から編集者に原稿執筆依頼される大衆小説家へと立場が変化していった。「きんぴら先生青春記」は、甲府より平塚市にある花水女学院へ転任してきた教師・坂田金平を主人公に設定し昭和20年代の学園生活や平塚市の様子について描かれているユーモア小説である。

昭和26年(1951)1月、県立希望ヶ丘高等学校を病氣退職し、22年間の教師生活にピリオドを打つ。以後作家活動一筋となるが、鳴山は、売れっ子作家であった。「朝日新聞」昭和28年4月28日に「人さまざま 鳴山草平」という記事がある。その内容を紹介すると以下のとおりです。

鳴山草平(なるやまそうへい)というペン・ネームくさい名前が、大衆文壇の一角にクローズ・アップされてきたのは、二三年前からである。

講談倶楽部に四年越し連載中の読切短篇「きんぴら先生青春記」が読者受けをし、つづいて、昨年、婦人倶楽部に連載した長編「お嬢さん」が好評を博するに及んで、今や、鳴山は、講談社ジャーナリズム秘蔵ッ子作家の観を呈している。

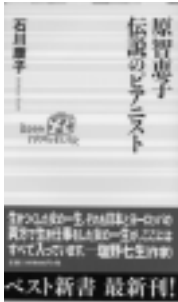
昭和46年(1971)10月、胃がんのため東京医科歯科大学付属病院にて手術を受ける。年末には、退院し藤沢市の自宅へもどるが、翌年2月再入院となり3月7日午前4時19分、胃がんのため同病院にて69歳の生涯を閉じる。墓地は、山梨県都留市の用津院、戒名は宝徳院文林好照居士。教師と作家との二足の草鞋をはいていたが、小説家としては懸賞小説作家から出発し、師匠をもたず誰にもへつらわず、独立独歩の道を歩み続けた。

最後に、今回の執筆にあたり山梨県立文学館のご協力を賜りましたので、厚くお礼申し上げます。

(参考文献)

「創立五十年史」	神奈川県立平塚江南高等学校	1973年
「火薬廠のある街で」	戦時下の県立平塚高女を記録する会	1997年
「大衆文学大系」29	講談社	1973年
「日本近代文学大事典」机上版	講談社	1984年
「朝日新聞」昭和28年4月28日		
「朝日新聞」昭和47年3月7日夕刊		
「寒川町史5 資料編 近・現代2」	寒川町	1994年

図書館員のおすすめ本（ぜひご一読を！）



「原 智恵子 伝説のピアニスト」 石川 康子 / 著 KKベストセラーズ

原智恵子の死亡記事が、朝日新聞に掲載(12月10日夕刊)されると時を同じくして、本書は出版された。世界的に有名なピアニストだが、その実像は知られていない。実父・原条太郎は、作家・有島武郎の親友である関係から、智恵子13歳の時、武郎の弟・生馬とともに渡仏し、パリ音楽院に入学。言葉も分からない外国で、厳しいレッスンに堪えぬき、ついに17歳の時、同校卒業コンクールで1等賞となる。以後、人気・実力ともに世界一であったが、なぜか日本では、徹底的に無視された。それは、日本の評論家が、門閥・学閥を重視したためである。



「世界がもし100人の村だったら」 池田 香代子 / 再話 C. ダグラス・ラミス / 対訳 マガジンハウス

世界のなかでの自分を見つめてみたら…。
とても身近な統計資料です。不満のある方、自分のことを不幸だと思っている方、生きているのがつらい方には特におすすめ。とても、勇気をあたえてくれ、幸せにしてくれる本です。



「女ざかり」(ビデオ) 大林宣彦 / 監督 出演：吉永小百合 津川雅彦 風間杜夫 藤谷美紀ほか

論説委員・南弓子を取りまく『女ざかり』と『男ざかり』。弓子の書いた社説が、新聞社や政府の裏組織に思わぬ波紋を呼んでしまい、新聞社のために論説委員からはずされることに。これにたいし真っ向から戦いを挑む弓子と彼女を救おうとする男たち…。

そして彼女の決断は。仕事と恋に生きる現代女性を吉永小百合が演じる。



「ぼくはあるいた まっすぐ まっすぐ」

マーガレット・ワイズ・ブラウン / 作

坪井 郁美 / 文 林 明子 / 絵 ペンギン社

ある日、ぼくはおばあちゃんのおうちへひとりで行くことになったんだ。おばあちゃんのおうちは、ぼくのおうちの前の道をまっすぐまっすぐずーっとあるいていったところにあるの。まっすぐまっすぐあるいていくと、そこにはね…。心がほんわかあたたかくなる本です。



「捨て犬の心」 藤本 雅秋 / 写真 坂崎 千春 / 文 WAVE 出版

本書に登場する子犬たちは、幸運にも処分を免れた「譲渡犬」です。でも、年間65万頭もの命が人間の都合で「処分」されています。その現実から目をそらさず「処分」されていくものたちの存在を知ってください。



○利用統計

個人貸出状況 (平成13年度4月～平成14年1月)

区分	中央	北	西	南	BM	合計
入館者数	343,677	132,418	158,858	143,364	—	778,317
貸出点数	385,921	163,211	247,974	264,585	29,574	1,091,265
登録者数	63,115	12,590	17,815	11,411	6,844	111,775

○資料統計

蔵書数 (平成14年1月末現在)

区分	中央	北	西	南	BM	合計
図書	309,960	104,863	136,444	111,246	39,256	701,769
うち児童書	60,881	40,900	62,130	40,541	17,517	221,969

視聴覚資料 (平成14年1月末現在)

16ミリ映画フィルム	627	ビデオ	19,443
CD	20,075	LD	1,606

編集後記

蔵書点検も終わるといよいよ新年度。今年も良い本にめぐり合えますように、と願っています。

松の古葉も落ちて、緑の鮮やかな今日この頃です。(O)

中央図書館 (31)0415

北図書館 (53)1232

西図書館 (36)3555

南図書館 (21)3080